

相模原 J-DAG 指導者スタッフ養成研修への参加報告

日 時:10月24日 13時~16時

場 所:相模原市民会館第2会議室

参加者:大西、片山、田中(栄)、田中(喜)、高松、早川、山田、田中(晃 記録)

資料:①J-DAG 指導者(FT)養成研修スケジュール ②J-DAG 相模原版の企画・運営と事前準備(実施要領) ③J-DAG(講習会参加者の皆様へ) ④だるま資料 ⑤反省会資料

1. J-DAG指導者(FT)育成研修

- ・案内:さがみはら防災マイスター 小嶋 洋氏(だるま会員)
- ・J-DAG のファシリテーター役の進め方を指導。
- ・トランシーバーの使用方法やプレゼンの方法、事前準備などの指導
- ・今後の計画:J-DAG初心者編研修会(指導者編受講者が主体で実施予定)
研修会は12月~1月の間で開催予定(調整中)

2. 訓練内容

(1)実施要領解説と無線機操作合法の指導・訓練

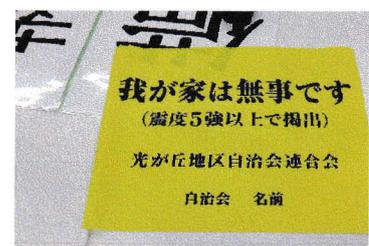
(2)ゲーム実技:各班3・4人で1グループ、4つのグループとした。

「本部」「機材倉庫」「班」(他班兼務)を20分ずつ分担(時間で終了)

トランシーバーは各班2台

指示書により、警報、安全確認、安否確認、統計

現地の火災や倒壊現場(絵)確認と機材借用、対応



(3)研修者からいろいろな意見を聞きました

- ・「何度も役割を変えて体験できるのは良かったと思います。」
- ・「ただ忙しすぎて分かりにくかった」
- ・「指示書通りに読むことは良かったと思うが、考える暇がなかった。」
- ・「終わってほっとした。これからシナリオを見て考え直したいと思う。」
- * 今回の訓練にはベテランのほか習熟されていない人もいたようです。
- ・前回の訓練から J-DAG は見ていない。久しぶりに見た。1年ぶりだ。
次回参加するまで、見ることもないが?の意見もありました。

- ・デジタル無線の訓練は当日早朝にも通話訓練をやったが、トランシーバーは1年ぶりだ。
- ・3回目は指示書がどこにあるのかわからなくて混乱してしまったようで、スタートのときに準備ができていなかったのでしょう。
- ・繰り返して行うことの大切さを感じました。
- ・若い女性が参加していて心強いと思いました。

(4)防災塾・だるま出席者からの意見

① 良かった点

- ・精力的に準備されたこと、取り組んでいることに敬意を表します
- ・毎年開かれ、行政も数人参加しており、地域への啓発活動も活発にされている
- ・訓練の資料作りは素晴らしく、時間と労力をかけた活動を展開している。
- ・当初、1つのグループで2つか3つのグループの対応をしたので混乱したが、全(3)グループの役割を担当できたので、最後には理解したようです。繰り返しが大事だ。
- ・手順が細かく作成され、FTの指導が統一されるのが期待される。
- ・トランシーバーの取り扱いについても皆さん慣れていて、スムーズに使用されていました。各班2台、1台は本部・他班とのやりとり、1台は現場確認と機材受領に使用した。

② 検討を要する点

- ・本部からの文書の指示内容をすべてトランシーバーで伝えたので、次へ進まないケースがあった。
- ・マイクがよく聞き取れず、最初の避難所についての紹介は何でやるのか不明だ。
- ・こんな場面も見られましたが・・・
- ・火災現場に行く場合 備蓄倉庫へ行き機材を準備して現場へ持参
消火後に負傷者がいると報告し、本部から一時避難所へ移送するように指示されたが、現場の指示書には指示が記載されてないため何も出来なかった。
実際の行動はどうでしょうか。まずは、自宅の消火器を持っていくとか
- ・家具の下敷きになった人を救出する場合 備蓄倉庫に行き機材を準備して現場へ持参。
救出したが負傷しているので、一時避難所へ移送することになった。
倒れた家具から救出するのに特に機材はいらないと思うが。
足が折れたということですが、その場であるもので対応すること



③ 改善を要する点

- ・指示内容が細かく記載されているので、それを読んでいるケースがある。
- ・各班は準備された文言を、ただ順に読んでトランシーバー交信しているだけであり、筋書きどおりにゲームをスムーズに進行させることが目的となっている。訓練から学ぶべき肝心なものが失われていた。
- ・指導者養成で経験者対象のため説明が一部省略されていたが、理解しているか不明。時間管理で終了し簡素化しているが、指導員を養成するには徹底した検討が必要ではなかったか？

④ 全体感想

- ・反省会は省略せずに行なったらどうでしょうか。
- ・指示所には、火事とか家具の倒壊等事象が記載され、災害現場に行くときどんな状況か記載したメモがある。状況に応じてどんな行動をとったらいいか自分で判断させる。一つのシナリオには書き切れないので判断力を養う訓練にすべきです。

(発案者 片山さん感想)

J-DAGは、発災直後の「重要事案」に対して、地域のメンバーがトランシーバーを連絡手段として連携しながら、速やかに、より良いと考える判断と、より良いと思える行動を各自が臨機応変に考えて実践し、重大事案に対処し減災に結び付けるゲームです。

即ち、連携・判断・行動・機材活用などを、筋書きではなく本番さながらに臨機応変に実践して学ぶものです。ゲームはうまくできる必要はなく、また正解もありません。そこで各自がとった判断と行動が、結果的に良かったかをゲーム後に反省して自分のものにし、本番の大災害時に備えるものです。ゲームでは失敗するほど多くを学べます。



田中追記メモ

小嶋さんから田中栄治リーダーに (ゲーム後)

1. いくつか気になる点も伝えましたが、小嶋さんが参加した班の方からも指摘はされているので今後改善されるそうです。
2. 片山さんが指摘された点に関しても能動的に動ける試作版もあるそうです。今回は、J-DAGにまだ習熟されてない方がいるので使われなかったとのこと。
3. 出席者には、J-DAGの運用の仕方をなんとなく分ってもらえたと思い、目的は達成できたそうです。
4. 試作版については今後タイミングをみて導入していくそうです。

●「J-DAG相模原版」(小嶋さんからの情報)

平成30年に行われた街中での防災訓練が、指導者側の知見不足で訓練参加者にご迷惑をお掛けした時に、J-DAGの存在を思い出し、平成31年4月に相模原市内で初のJ-DAGをだるまの全面協力により体験して頂きました。その後参加者から街中防災訓練を簡単にイメージ出来ればという意見を頂き、指示書の書式を変更し、会場に災害現場を掲示するなどの独自のアレンジを加えました。

さらにJ-DAGの手法を避難所運営訓練に応用し、具体的には立上げ順番に合わせて指示書を作ることにより、7~8人程度の少人数でも効率良く、「従来の約半分の時間で最小限の機能」を持った避難所が立ち上がる手法も誕生しています。

以上